

阿川ランドセル株式会社



代表取締役 阿川 政明さん

年間1万5000個の
ランドセルを作ります。



専務取締役 阿川 純司さん

ランドセルは、本革のものと人工皮革のものがございますが、うちは人工皮革のランドセルがメイン。20年前くらいまでは本革で作っていました。本革は、1枚1枚をランドセルのパーツにカット。しかも、虫刺されや擦った痕など革自体についている傷をよけながら裁断しなければなりません。少しの傷でも返品やクレームになりますから、作業にも手間がかかり、コストもかかってしまいます。

人工皮革に移行してからは最新マシンを導入し、生産性をアップ。ただ、機械だけに頼っていては、大手の取引先に満足いただける品質を作り上げられません。サンプルを作れる技術を持っているからこそ、細部にまで厳しい目でチェック。最終的な仕上げは人の手で行っています。

この業界は設備投資に多額の費用がかかるため、新規参入はほとんどありません。逆に、少子化によるランドセルニーズの減少で、廃業するメーカーも増えています。それでも、うちが続けられているのは、祖父の代から続けてきた技術力と設備力があるから。直販ではなくOEMに徹していることも、難しいデザインや厳しい品質に応えるために技術力をあげることにつながっています。

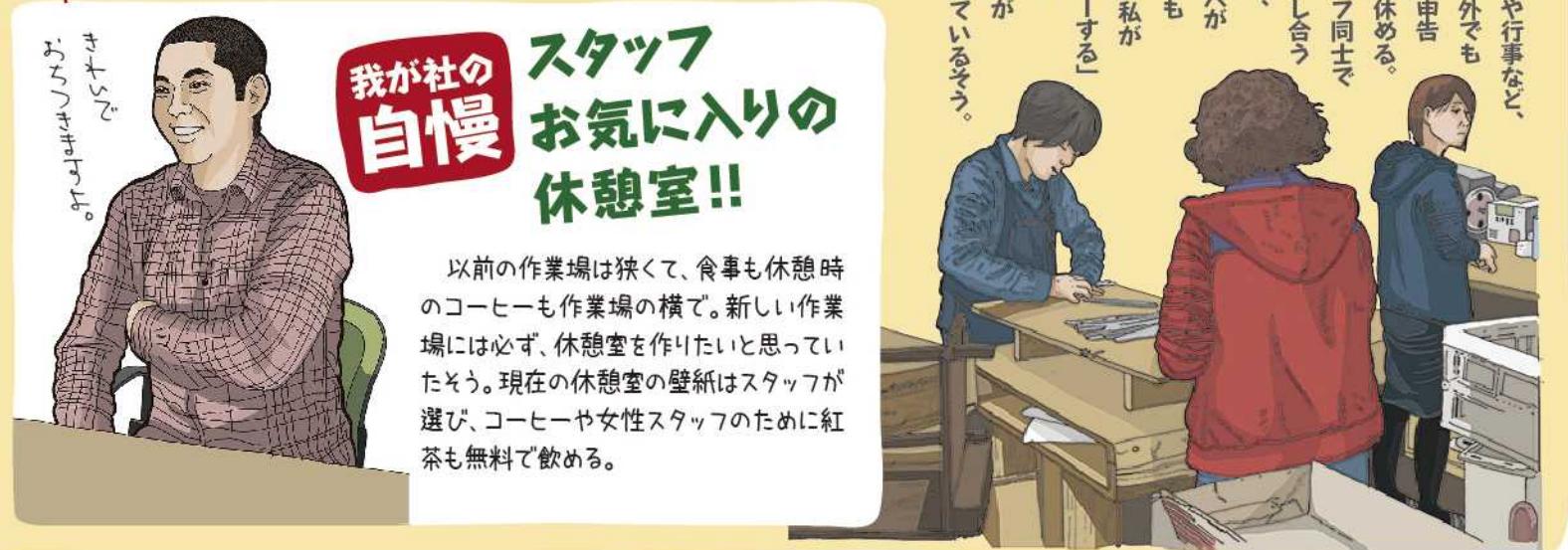
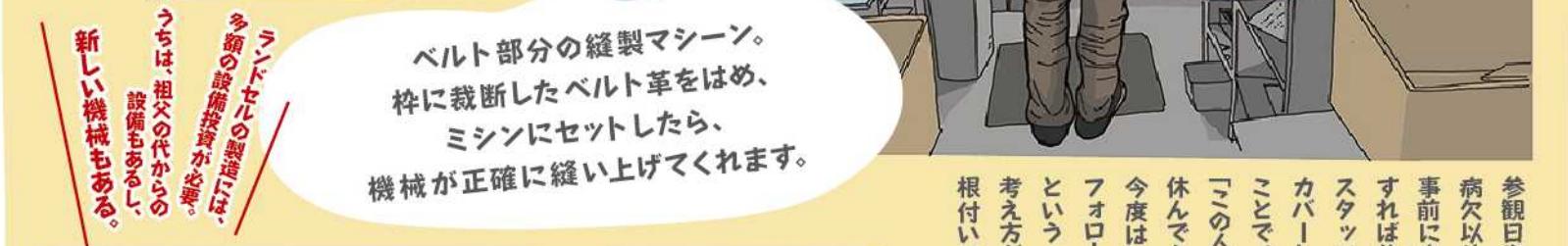


車椅子の
ふたづり
お子さん
うんだせじは
社長自らが
作ったもの。
「僕自身も親に
作ってもら
いましたが、
小学校4年生ぐら
いでも、
遺しました(苦笑)

工場は1階が裁断、
2階が縫製や組み立て
などのメイン作業場。

職業体験では、糸を切つたり、
生地を裏返したり、
糊付け作業などを
行ってもらいます。

中学生の



年1万5000個以上を製造 人工皮革のランドセル

昭和27年に創業し、時代に左右されることなく一貫してランドセルを製造。現在、大手流通グループや大手百貨店などの依頼を受け、OEM(Original Equipment Manufacturer)の略。他社ブランドの製品を製造)での製造を行う。

ランドセルは4月ごろから展示会や受注販売会が行われ、6~10月ごろにピークを迎える。同社では多い月に1800個、年間で約1万5000個ものランドセルを製造。少子化の流れを受けランドセルも減少しつつある反面、1個あたりの単価は年々アップ。ここ数年は、高価なものから売れていく現象が起こっている。同社は現在、人工皮革のランドセルをメインに行っている。人工皮革といっても、撥水加工や発色、質感など本革に劣らない品質を兼ね備えたもので、価格も高めのものを扱う。大手流通グループのキャラクターランドセルは20%以上増産、百貨店ブランドも増産続きで、同社の作り出す品質の高さがうかがえる。

製造を支えるのは、30代の若手スタッフを中心。お子さんのいるママスタッフも多く、明るくきれいな作業場が印象的。ナイフカッティングマシンとCADシステムの導入で、飛躍的な生産能力の向上と短納期を実現している。

阿川ランドセル株式会社

〒544-0022 大阪市生野区舍利寺2-6-17
TEL 06-6731-3477 FAX 06-6731-3478

事業内容／ランドセルの製造・販売